

牧会 / 社会 / 神学

「神学校教育アンケート調査」から見えるもの

第5回日本伝道会議シンポジウムの一つ「21世紀の神学校の課題」ポスト・モダンと神学校教育」では、聖書講義講師を迎えたナレンドラ・ジョン氏(アジア神学協議会(AITA)代表、インド・フリーメソジスト教会監督)を囲んで日本の各神学校関係者が協議するとともに、「神学校教育に関するアンケート調査」の結果が発表された。そこから見えてきたものは何か――調査・分析にあたった福井誠氏(お茶の水聖書学院教務)に報告してもらった。

日本伝道会議シンポから

日本の神学校の現状とが中心であった。しかし課題については、様々な語られてきた。それらは大方当たっているように思われても、統計的に確かめられたことはない。今回の日本の神学校27校の卒業生を対象とした「神学校教育に関するアンケート調査」は、その意味で意義あるものであった。確かに実際の分析結果は、巷でよく言われている事柄を裏付けるもので、特段新しいことはない。しかし、それだけに、皆が感じていることに、神学校は真剣に取り組みなくてはならないことを意識させてくれるものであったと言える。

どんな神学を学ぶべきか

まず、どのような神学を学ぶかという課題がある。これまで日本の神学校は、聖書と伝統に基づく伝統的な神学を学ぶ

期待される牧師のキャリア開発と教会形成支援のパートナーの役割

まず、現場のコンテキストの中でそれを応用できるまでに十分訓練されることを回答者が望んでいることを示唆している。第2に、回答者たちは、基礎教育以上の、現場で使えるスキルの習熟を教育期間内に願っている。それは現場の教派・教団の教育に任せられるとも考えられるが、現場は牧師が育つのを待ってはくれない。やはり卒業以前に自国語、地域文化、また日本人独特のコミュニケーションや組織運営、リーダーシップのあり方について理解を深め、現場で使えるスキルを身につける必要性の声は強い。いやシンポジウムでは、そうしたスキル以前に、現実には、しつけの教育、つまり、家庭や社会でやり残した教育が必要という声もあったが、それは教育よりも選考の問題ではあるまいか。

牧師を支援する成熟した信徒育成

第4に、信徒教育の必要性と牧師のケアについて。燃え尽き症候群といわれる牧師や牧師夫人に対してケアが必要であるという声はよく聞かれてきたことである。しかしそれだけでは解決が難しいことは明らかである。だから、環境調整以外に道はないほどに事態が悪化する前に、いわば送り出す前に、先の実践的スキルを予防的に身につけさせることが重視される。しかしそればかりではない、牧会者の側に立つて物事を考えられる成熟した信徒の育成が求められている。ただ、神学校で学ぶ信徒は、聖書講義は好んでも牧会や宣教の訓練を受けることは望まないことが多い。そこをどう克服するか。

第5に、そのためには

神学校と教会が協力して学習共同体を作る教育システムの改革が期待されている。つまり、牧師のよき理解者であり協力者である奉仕者を育成するために、神学校と教会が教育的に配慮し、さらに、神学校の横断

出す前に、先の実践的スキルを予防的に身につけさせることが重視される。しかしそればかりではない、牧会者の側に立つて物事を考えられる成熟した信徒の育成が求められている。ただ、神学校で学ぶ信徒は、聖書講義は好んでも牧会や宣教の訓練を受けることは望まないことが多い。そこをどう克服するか。

神学校に対する期待は大きい。それは過剰な期待かもしれないし、実際に、すでに過密化したカリキュラムを抱える神学校ではもはや対処しきれないという声もある。だが神学校教育期間の延長やインターンシップの導入、生涯キャリア開発教育の実施を考えるならばそこに可能性があるのではないだろうか。神学校は、いまや牧師のキャリア開発と教会形成支援のパートナーとしての役割を期待されている。そこに近年のITを取り入れれば、神学校からは地理的に遠い地方に住む人々にも教育的に配慮し、さらに、神学校の横断

的な連携教育を実現する可能性が生じる。そしてこのような長期的な教育を実現するためにも、学生の経済的必要性に配慮も考えていく必要があるだろう。

英語聖書NIV 11年に改定版 性差撤廃で論議のTNIVは廃止

【CJC】東京】英語「新国際訳」聖書(NIV)が2011年に改定版を発行することになった。今回は全世界の英語使用者を意識した訳出を心がけているという。米「ヒブリア」(国際聖書協会)とセント・ザライトの後身)がスポンサーで出版も所有、ソナダーバン社が発行元。NIV聖書翻訳委員会は様々な教派、地域出身の15人で構成されている。改定版の刊行に伴い元版と05年刊行の現代国際訳(TNIV)は発行を

人作りができない

第3に、教育方法の改革について。日本は神学校教育のみならず一般教育においても、知識の詰め込み型の教育を伝統としてきた。結果的に講壇から聖書を教えるのは得意であるが、人作りができない悩みを持つ牧師は少なくない。育てられずして育てることは難し

「時を経て、英語も変化する中で、NIVは時代遅れ。NIVを世界中の現実に即応する責任を担わせるためにNIVもそれをする必要がある」という。英語を話す人たちが理解できるように守り続けることを欲するならば、その人たちが今使っている語彙を受け入れ、それを重んじなければならぬ」とヒブリアのキース・ダンビー会長は述べた。

「聖書における男性と女性協議会」のランディ・スティンソン会長は、NIV刊行停止を称賛、「ソナダーバン社とヒブリアが誤りを認め、福音派にこの数年、論議を巻き起こしたことを認識したのには、非常に謙虚なことだ」と述べた。

以来英語は商業とコミュニケーションの分野で基本的に国際語となった。その結果、語法の変化も急速に進んでいる。この現実が、理解を徹底させるためにはNIVもそれをする必要がある」という。英語を話す人たちが理解できるように守り続けることを欲するならば、その人たちが今使っている語彙を受け入れ、それを重んじなければならぬ」とヒブリアのキース・ダンビー会長は述べた。

「聖書における男性と女性協議会」のランディ・スティンソン会長は、NIV刊行停止を称賛、「ソナダーバン社とヒブリアが誤りを認め、福音派にこの数年、論議を巻き起こしたことを認識したのには、非常に謙虚なことだ」と述べた。

教会が教会であるために

精神障害と教会

61

「自分を助ける②」

向谷地 生良 (むかいやちいくよし) 北海道医療大学看護福祉学部教授、浦河日赤病院ソーシャルワーカー、病棟「べつるの家」を運営する三足のワラジを履いて活躍中

前日から、鬱病、不眠症、パニック障害をお持ちで、職場での人間関係にも困難をかかえていらっしゃる方の相談を取り上げています。詳しいプロフィールは明らかではありませんが、多くのべてるのメンバーの経験を参考に答えさせていただきます。そこでポイント「自分を助ける」というまなざしを持つということです。そのためには、「自分を助ける手役」は自分であるということを理解し、実践することの大切さを説明しました。病気が医師に治してもらおうというのはいかに当たり前のことですが、実はパニックなども「生活習慣病」と同様で「人任せ」、べてる流に言うところの「苦勞の丸投げ状態」に陥ると、あまり良い結果は生まれないようです。つまり、「生活習慣病」に例えると、普段の生活習慣と体調不良の関連をよく知る必要があります。その関係を見極める必要があります。

「仲間」の経験が手助けに

べてるのメンバーは、それを手エックする方法として「な・つ・ひ・さ・お・ちエック」を用いています。それは、「な」は「悩みはないか」、「つ」は「疲れてないか」、「ひ」は「ヒマを持て余してないか」、「さ」は「寂しさを抱えてないか」、「お」は「お金の苦勞、お腹が空いてないか、お薬を飲み忘れていないか、副作用はないか」などの苦勞の点検をするという習慣です。その見極めの作業をべてるでは「研究する」という言葉で表現します。 なんとなくにパニックが起きるのか、その兆しは何か、パニックが起きた時の今までの対処法はどうだったか、その効果は? 効果があつたとしたら、新しい対処方法はどうかしらうらいか、などをいろいろと情報収集しながら、模索し獲得する作業―当事者研究―を通じて自分の助け方がわかってきます。そして、べてるのメンバーの研究から、パニックを起す前に、本人に起きている出来事として「誤作動現象」に注目することが大切だと言われています。誤作動現象、というのは、危機状態が迫っているわけではないのに、身体が勝手に「危険」と判断して「避難命令」パニックをを出すことをいいます。そのような誤作動現象をもった人が、回復する手立てとして大切なのが仲間の存在です。これは、生活習慣病をかかえた人の暮らし方の基本となるものです。 べてるの経験から言っても、医学的な情報以上に、実際にその病気を経験している人の情報には、良薬に勝る効果があります。

©みなさまのお悩み・ご質問・ご意見を募集しております。「精神障害と教会」にかかわる具体的なお悩みや、ご質問を送ってください。宛先は〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-10CC ビル5 階 クリスマス新聞編集部まで。HP でも募集中です。http://jpnews.org/seishin/ (掲載の場合は薄謝進呈)